

令和元年度 第1回横浜市創造界限形成推進委員会

次 第

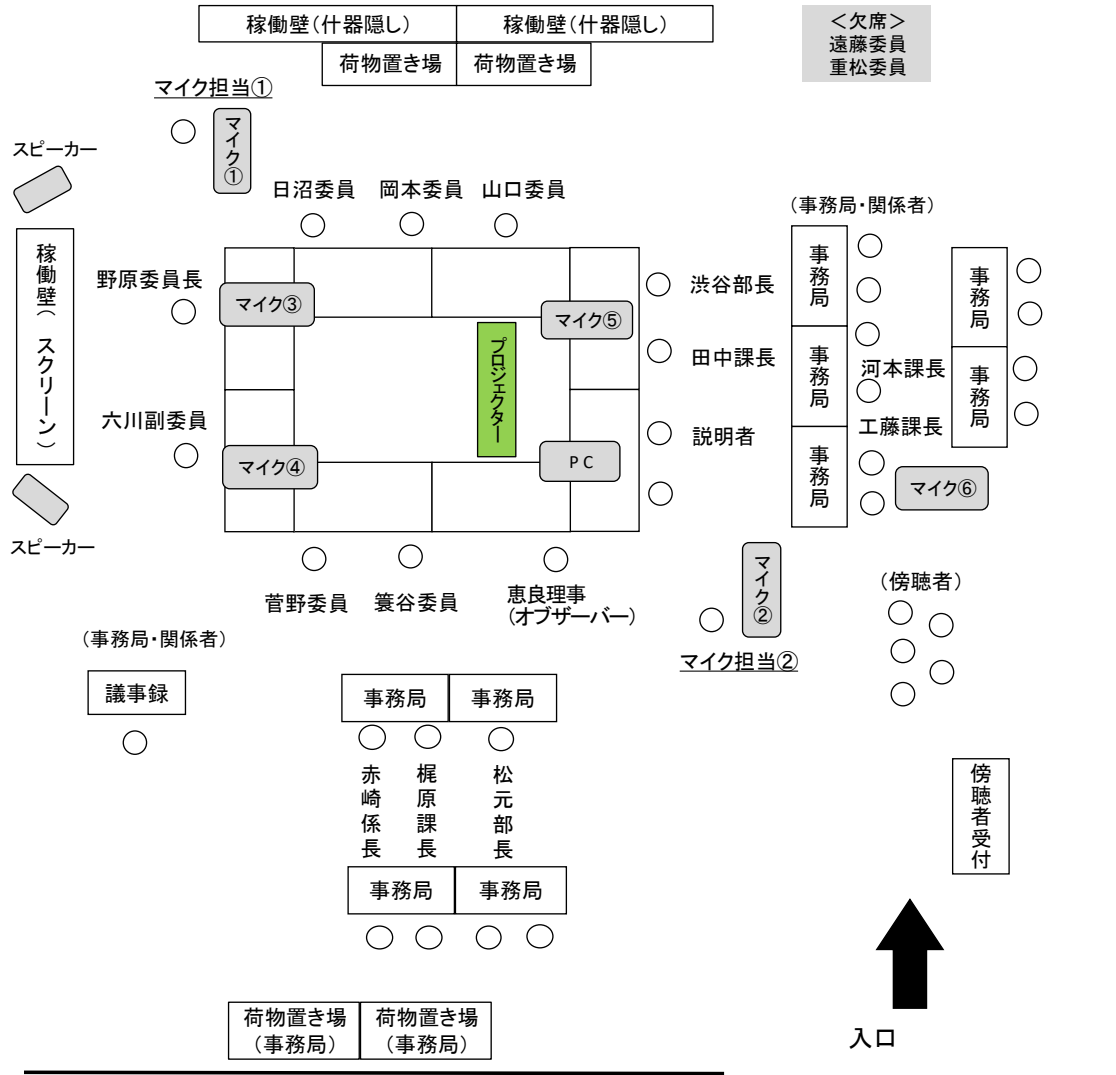
日時：令和元年7月12日（金）
10時00分～11時30分
会場：YCC 横浜創造都市センター
3階スペース

- 1 平成30年度事業評価について
- 2 象の鼻テラス運営団体選考のスケジュールについて

【席次表】

令和元年度第1回横浜市創造界隈形成推進委員会

日時: 令和元年7月12日(金)10時00分~11時30分
 会場: YCC ヨコハマ創造都市センター 3階



<欠席>
 遠藤委員
 重松委員

(事務局・関係者)

(傍聴者)

傍聴者受付

入口

横浜市創造界限形成推進委員会委員名簿(9名)

氏名	所属団体(役職名)		分野	出欠
◎野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	都市計画	○
○六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	経営と地元	○
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画	欠席
岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	舞台芸術	○
菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流	○
重松 久恵	ブランド・マネジメント・コンサルタント		創造産業	欠席
日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント	○
簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり	○
山口 真樹子	国際交流基金アジアセンター	舞台芸術コーディネーター	国際交流/舞台芸術	○

◎…委員長

○…副委員長

横浜市創造界限形成推進委員会 分科会委員名簿

旧第一銀行横浜支店事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	経営と地元
簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
★若林 朋子	プロジェクトコーディネーター/プランナー		企業支援と芸術

旧関東財務局横浜財務事務所事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	都市計画
重松 久恵	ブランド・マネジメント・コンサルタント		創造産業
★田辺 恵一郎	プラットフォームサービス(株)	取締役会長	まちづくり 施設運営・経営

旧老松会館事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 山口 真樹子	国際交流基金アジアセンター	舞台芸術コーディネーター	国際交流/舞台芸術
岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	舞台芸術
★恵志 美奈子	世田谷パブリックシアター 劇場部		公立文化施設

象の鼻テラス事業評価分科会

◎ 菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント

初黄・日ノ出町文化芸術振興拠点事業評価分科会

◎ 日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
★田辺 恵一郎	プラットフォームサービス(株)	取締役会長	まちづくり 施設運営・経営

文化芸術創造発信拠点事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流
★恵良 隆二	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	専務理事	まちづくりと経営
★近澤 弘明	(株)近澤レース店	代表取締役	経営と地元

◎…議長

★事業評価及び運営団体選考分科会に参加する委員以外の有識者

平成 30 年度事業評価

施設名：初黄・日ノ出町文化芸術振興拠点施設

分科会名：初黄・日ノ出町文化芸術振興拠点（黄金町エリアマネジメントセンター）事業評価分科会

総合評価

■ 評価

- ・黄金町バザール開催前に高架下にある商業施設（T i n y s）でイベントを実施したほか、バザール会場として伊勢佐木町商店街の店舗も活用するなど、地域との連携ができています。今後は、インバウンド獲得を意識した工夫ができると良い。
- ・これまで 10 年以上、着実に取組を継続してきたことで、収益面以外の成果（文化の耕し）が出ている。
- ・レジデンスアーティストの海外での展示機会が増えているほか、卒業時には周辺物件を紹介する等、積極的な一貫した支援ができています。実際に卒業後に周辺地域に残るアーティストが増加傾向にあることは高く評価できる。今後、黄金町がアーティストの街として認知されていくことを期待する。
- ・TVやCMのロケ地として認知され、露出の機会が増えている。これまでの取組による成果ともいえるので、うまく活用できると良い。
- ・業務をセクション毎に振り分け、各セクションにマネージャーを配置する等、スタッフの専門性を高めつつ、業務効率化を意識した体制の工夫が図られている。

■ 課題

- ・多岐に渡る業務をこなしている点は評価できるが、マンパワーに見合った事業計画となっているのか、成果が出ているのか、収支のバランスがとれているのか、事業ごとに適宜振り返り、改善・整理していけると良い。

■ 市が取り組むべき事項

- ・創造都市施策（創造限界拠点）のあり方について、委員会を中心に検証を進め、運営団体と共有していけると良い。
- ・都市整備局が借り上げてNPOに貸し付けている周辺施設の老朽化対応については、都市整備局と連携して整理し、施設を有効に活用できると良い。

平成 30 年度事業評価

施設名：急な坂スタジオ

分科会名：旧老松会館(急な坂スタジオ)事業評価及び運営団体選考分科会

総合評価

■ 評価

- ・相談室 plus や新規サポートアーティストの応募数も増えており、着実に事業を運営している点が評価できる。
- ・急な坂食堂を開設する等、新しい事業に積極的にチャレンジできている。また、食堂があることで、より地域に開かれた施設となった。
- ・新規事業含め、ニーズを丁寧にすくいあげた企画運営・サポートができており、稽古場としては十分な運営ができています。今後は、運営体制を十分に確保したうえで、体験型プログラム等、市民の創造性を育むプログラムを増やせると良い。
- ・新しい連載企画を実施したことにより、ホームページのアクセス数が増加したほか、SNS で拡散される等、認知度向上につながった。今後も継続・拡充を期待する。

■ 課題

- ・運営の継続性を意識し、現在の人件費が適正か、業務内容や業界水準を考慮して見直すべき。
- ・スタジオ利用料金について、例えば商業ベースのものについては別料金を設定するなど、用途に応じた減免制度や利用の実態にあわせた基準を設けられると良い。
- ・スタジオの利用実態をアンケート調査し、運営手法（開館時間等）の見直しに反映できるとよいのではないかと。

■ 市が取り組むべき事項

- ・拠点が担う事業規模等に応じた業務内容や労働条件となっているかを把握し、適正な人件費を確認できると良い。

平成 30 年度事業評価

施設名：BankART1929

分科会名：文化芸術創造発信拠点 (BankART1929) 事業評価及び運営団体選考分科会

総合評価

■ 評価

[活動]

・新しい拠点となって1年目であったが、移行期をうまく乗り越えた。新旧の街に分散して拠点を持つことになったことに対し、ソフト的な意味でのネットワークから各施設をどのように活用していくかまで、新しい可能性を含めて見えてきたことは評価できる。

・Station については横浜高速鉄道や道路局との調整の結果、よいスペースを作り上げることができた。事業についても、集客数が大きく落ちることはなかった。各拠点の特徴を生かした今後の展開に期待が持てる。

[財政]

・新たに拠点を設置し、工事費・整備費等で予想外の支出があったものの、収支を合わせられたことは評価できる。

■ 課題

[活動]

・各拠点と都心部全体の両方の視点を持ちながら新たな展開をし、国内外の評価を再生してほしい。

・分散化したことのプレゼンスを高めるために、鉄道事業者とのさらなる協働を目指すべき。特に、駅構内施設のメリットを生かしていくことが求められる。

・目覚ましく発展する新高島の立地を生かし、企業とのネットワークの構築や、ここで働く新たな就業者とのコミュニケーションを活発化してほしい。

[広報]

・例えば、拠点共通のサインを入口に掲げるなど、分散化した新たな拠点を認知してもらえるような仕掛けづくりをし、来場者をこれまでよりも増やしていくべき。

[運営]

・少人数で複数の拠点を運営していることから、今後のディレクター人材の育成や安定化を図ることが求められる。

■ 市が取り組むべき事項

・創造都市施策を、時代性を踏まえながらさらに推進する上では、目指すべき方向を市とそれぞれの運営団体が共通認識を持つことが大切である。その中で、BankART の役割を見据える必要がある。

・美術館などの専門施設や新たな公共空間において、企業市民との連携の仕掛けづくりを行い、政策的に支援していくと、BankART の可能性が広がっていくのではないかと。

・安定的な運営に向けたリスクマネジメントを運営団体と共に考えていくべきである。

平成 30 年度事業評価

施設名：YCC ヨコハマ創造都市センター

分科会名：旧第一銀行横浜支店(YCC ヨコハマ創造都市センター)事業評価及び運営団体選考分科会

総合評価

■ 評価

- ・日本芸術文化振興会からの助成金を得ており、昨年度課題であった財源の多様化が達成できている。過去の課題に対し取り組み、成果をきちんと出している。
- ・アートという敷居の高いジャンルに対し、子供たちにも触れさせることができるような工夫がなされている。施設のブランド化により、一般の人が使いやすい施設となった。また、地域とのコラボレーションにより、地域の活性化にも寄与している。
- ・年数を重ねるごとに YCC らしさが自主事業に出てきている。

■ 課題

- ・カフェ事業、レンタル事業、自主企画事業など、事業間のバランスをとっていく。
- ・音楽事業の実施検討があればなお良い。

■ 市が取り組むべき事項

- ・現状のスキームについて、見えてきた課題やスキームが創造都市政策に沿っているのか、ということについて市として検証し、次につなげていく必要がある。市の創造都市施策そのものについての検証も必要な時期にきているのでは。
- ・事業の一貫性が見えにくくなってきているため、創造界限全体を統括するプロデューサーの必要性についても検討していくべきである。

平成 30 年度事業評価

施設名：象の鼻テラス

分科会名：象の鼻テラス事業評価分科会

総合評価

■ 評価

- ・港にあることの特質や市民への開放性など、象の鼻テラスらしさのある企画が行われている。
 - ・10年という時間をかけて象の鼻テラスというブランドが確立されている。
- ここにしかない、かつ、市民に開かれた空間が、市民からの提案という形で実現する可能性があることが、他の拠点と違う特徴であり成果である。
- ・分科会で出た課題についてはきちんと改善・向上するよう努力されており、少ない人数でしっかり運営していることは評価できる。

■ 課題

- ・ゾウノハナ・バレエ・プロジェクトは、レッスンや公演を行うにあたって象の鼻テラスがそれらを提供する場所たり得るのか。
- ・ポートジャーニーについて、周囲への波及効果はどれだけあったのか。象の鼻テラスだけで完結しているように見える。
- ・市民に開かれている、という特質を活用し、アーティストと市民がインタラクティブな関係で実施できるプログラムを実施できるという。
- ・目標に対し、どれだけ自分たちが達成しているのか、評価のほかり方を検討していく必要もある。それにより、何が欠けているのかがはっきりするのでは。

■ 市が取り組むべき事項

- ・公園(パーク)活用として、港湾局との連携をこれからどう考えていくかが大きな課題。
- ・市民参加の性質が大きい場所であるため、これまでの推移や効果を調査し、今後の当拠点のあり方について検討していけるといい。
- ・評価軸について、市民に与える視点から、市民と作り上げていく視点にシフトできないか。
- ・創造界限拠点それぞれの役割分担の明確化することで、それぞれの運営団体がこの先どうしていくかを考えていく指針になるのでは。

平成30年度事業評価

施設名：THE BAYS

分科会名：旧関東財務局事業評価及び運営団体選考分科会

総合評価

■ 評価

- ・創造産業の集積に対する取組を行っており、成果が会員数の増加などの数字に表れている。
- ・新規の取組への投資もしながら健全経営をしている。
- ・ACYや市との協働も行っており、昨年度の課題を受け止め、それを丁寧に実施している。

■ 課題

- ・2階の会員数が増えていないこと、2階会議室の稼働率が低いことが課題である。
- ・会員同士のコラボレーションやイベントによる充実した商品開発、それに伴う店舗来客者増加、それを全館利用者数の増加につなげていけるよう、THE BAYS全体で連携していく必要がある。
- ・日本大通りの中での存在感を引き出していきたい。&9や+Bの活性化、中庭・オープンカフェの積極的な活用に向けて取り組んでいくこと。
- ・事業の体系づくりや発信について、単発ではなく、パークライフプロジェクトとしてのコンテンツ集約やパッケージングを行い発信していくと一層良くなると思う。

■ 市が取り組むべき事項

- ・市が事業者の要望を聞きながら一緒にやっていくような協働事業がないことが行政側の課題。
- ・中庭の活用は、民間だけでは解決できない問題。市の連携・協力が必要ではないか。
- ・他の拠点や事業など、文化観光局内、他局も含め、庁内での横連携を進めていく。